

氏 名：山谷 麻由美

学 位 の 種 類：博士（看護学）

学 位 記 番 号：甲第 210 号

学位授与年月日：2021 年 9 月 21 日

学位授与の要件：学位規則第 4 条第 1 項該当

論 文 審 査 委 員：主査 大田 えりか（聖路加国際大学教授）

副査 麻原 きよみ（聖路加国際大学教授）

副査 八重 ゆかり（聖路加国際大学教授）

副査 近藤 直己（聖路加国際大学公衆衛生大学院 准教授）

論 文 題 目：住民ボランティアと保健医療福祉従事者による地域づくり活動評価指標の開発

博士論文審査結果

本学位論文は、地域づくり活動の実態を明らかにし、効果的な活動ができているかという互いの認識を確認し、より良い関係性の構築とより質の高い地域づくり活動につなげるために、住民ボランティアと保健医療福祉従事者による地域づくり活動の実態を評価する指標を開発し、妥当性と信頼性を検討することを目的とした。

方法は、予備研究で地域づくりの定義を明確にし、先行文献等の分析から地域づくり活動の概念枠組みを作成した。本研究では内容妥当性と表面妥当性を確認のうえ評価指標 **Version3** を作成し、調査は住民ボランティアと保健医療福祉従事者に対して郵送法と直接調査法で行った。分析は、項目分析、妥当性と信頼性の検討、多母集団同時分析、等値制約を置いたモデルの適合度の確認を行った。

有効回答が得られた **735 人**（住民ボランティア **574 人**、保健医療福祉従事者 **147 人**）を分析対象にし、探索的因子分析にて、**8 因子 34 項目**で各因子の解釈が可能な最適解を得た。評価指標は一定の妥当性と信頼性が確認された。

審査で指摘された主な点は、次のとおりである。

1. 目的：研究目的の対象者をわかりやすく記載すること
2. 背景：用語の定義にパートナーシップの定義を加筆すること
3. 背景：これまでの研究とのギャップとこの指標の必要性を加筆すること
4. 背景：背景にプライマリ・ヘルス・ケアの活動として、本研究を位置づけてはどうか
5. 結果：地域づくり評価指標得点と SF8 得点を住民ボランティアと保健医療従事者

を分けて解析して関連をみること

6. 結果：評価指標は地域づくりに関する何を評価するものかを記載すべきである。
概念分析の結果と一貫した記載にしたかどうか
7. 結果：基準関連妥当性の検討において実施した、地域づくり評価指標得点と、65歳以上高齢者の要介護認定率等の活動が地域に与えた成果との関連に関する解析結果を見直し、それぞれの結果と研究仮説との関係性を記述すること
8. 考察：基準関連妥当性に関する考察を詳しく加筆すること
9. 考察：住民ボランティアと保健医療福祉従事者の差異について加筆すること
10. 考察：考察に国際的な比較を加筆すること
11. 考察：評価指標の活用可能性に関して加筆すること、構成概念そのものが教育・研究に役立つということを加筆すること

審査で指摘されたコメントには、全て回答し、修正・加筆を審査員全員で確認した。

本研究は、予備分析を経て本研究に至っており、十分準備され推敲されたものである。コロナ禍の調査であったが、700名を超えるデータを収集した。本研究成果は、住民ボランティアと保健医療福祉従事者が共に評価でき、活動を特定しない指標は国内外でみられず、開発された尺度は新規性がある。保健師の地域づくり活動の改善において意義は大きく、解析方法は明解であり、結果・考察の記述は一貫していた。

2018年4月の大学院入学より2021年7月までの研究業績は、和文学術論文3編、国内学会発表が2件であった。フルタイムで大学の教員として勤務しながら、熱心に研究を実施し、自立した研究者としての研鑽を積んでいると評価できる。

以上により、本論文は、本学学位規程第5条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。